

20m07H発表記録

授業をデザインすること



各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (授業をデザインすること)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (

- ・「教師と生徒」
 - ・「生徒と生徒」
 - ・「教師と教材」
 - ・「生徒と教材」
- これらの間で緊張関係を
持った授業を作ることで
↓
良い授業デザインの在り方

■肯定的 web (新学習指導要領について)

まとめ (

何を学ぶか どのような学びか

- ・既に行われている優れた教育実践の教材、
指導案などを集約・共有化し各種研修や
授業研究、授業・準備での活用のために
提供することの支援の充実

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取
り組みについて感じたことをのべよ。

■ 今回発表は部分は全体的なまとめの他
他の内容が頭によりやすかった。

■ 5段階班の自己評価 (3)

■否定的 web (インストラクショナル・デザイン)
まとめ (

- ・教科書のデザイン ⇒ 関係重視 (相互依存)
- ・インストラクショナル・デザイン ⇒ 教師視点

■班としての要約

まとめ (

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・授業デザイン	・緊張関係	・	・
・教師と生徒	・教材で教える	・	・
・生徒と生徒	・教材と教える	・	・
・教師と教材	・衝突	・	・
・生徒と教材	・葛藤	・	・

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことを
のべよ。

■ 授業の形は無限数存在し、
より良い授業の形と探し努力を一生

教科内容と子どもの学び



各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教科内容 とともに学ぶ)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ 教科内容の見直しにより、教科内容アプローチ
- ・ と社会文化的アプローチの二元論の克服が
- ・ 見指されるが、そのためには、教師の高い
- ・ 指導力や深い知識が重要である。

■肯定的 web ()

まとめ ()

- ・ これからの時代に必要な能力を育むには、
- ・ 教育の進化が必要であり、質の高い教育
- ・ には、今までのままではいけない。
- ・

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

- 教育者の大変さをあらためて感じたことかできた。

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・ 教師の負担が増えすぎているのではないかと
- ・
- ・
- ・

■班としての要約

まとめ ()

- ・ 時代により、教育が変わるのは必然であるが、
- ・ 多様性の増大の中で、教育者には高い
- ・ 能力を求められている。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ 考え方	・ 見方	・ 課題発見	・ 自己判断
・ 克服	・ 統合	・ 教科内容的	・ 社会文化的
・ 階級型	・ 登山型	・ アプローチ	・ アプローチ
・ カリキュラム	・ カリキュラム	・ 新時代の教育	
・	・	・	・

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

- 時代の変化に合わせた教育をするにあたり、教育者は常に学び続ける必要がある

対話的・共同的な学びあいのために



各班ワークシート複数資料用 (まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (対話的・協同的な学び)
合いのために

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・対話的・協同的な学びが起ころうためには
- ・「教室で起ころうとした出来事」と教師
- ・の身体が開かれていくことが前提であり
- 教師や子どもたちとの間のズレの中が
- 学びの可能性を見い出すことが必要

■肯定的 web (対話的学びとはなにか)

まとめ ()

- ・対話は他者とのやり取りを通して自分
- ・で取り組むよりもより多様な情報が入
- ・てくる可能性があるため物ごとに対する
- ・了深い理解が生まれる。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 自分の考えをまとめて主張することができていた。

■否定的 web (アライブラーニングへの批判とは)

まとめ ()

- ・勉強嫌いや学習意欲の欠落という根本
- ・が改善されないままに積極的に授業
- ・に参加するという態度だけを作り出そう
- ・としているように思える。

■班としての要約

まとめ ()

- ・学習で対話的・協同的に授業を展開する
- ・ことにより、子どもたちにとって深い学び
- ・につながる。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・対話的	・協同的	・学び	・勉強
・個人的	・排他的	・ズレ	・出来事に関わった
・アプロアイン	・納得	・共感	・身体
・葛藤	・対立	・	・
・	・	・	・

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 学びの本来の楽しさを子どもたちが感じられるような学びが必要

ICT活用例



各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT の活用)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

おべの単元, 学年

■目標、内容・指導の概略等

「生徒も教師も使いやすい」

- ・機械が昔年の人でも使える
- ・拡大・縮小やパンにできる
すぐに書きこめる
- ・生徒のタブレットとも共有

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■商品をかたよりおぼした。

もっと様々な種類があるものか
良いなと感じた。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■「どんな人でも使えるもの」が
ポイントで、使いやすからな
いうことを無くせる(少なくできる)

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

生徒の安全を第1に考え、
教師のつかいやさを求めて
webで調べた。

つねに電子黒板ではないため
授業によって切りかえることができる。

■工夫した点 出典等

プロジェクタ

RICOH PJ WX424 ZN / WX4241

■模擬授業を实践して感じてしたこと、わかったこと

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■「ICT活用」といわれても何から取り組みは
良いかわからないのではないかと感じました。
プロジェクタは今も活用されているため、
1歩進んだプロジェクタなら入りやすいと
思います。

教師にとっても生徒にとっても使いやすい
ものを見つけていきたいです。

各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (英語学習)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

中 1, 3 学期 ... 外国人の先生にインタビュー

中 2, 1 学期 ... 英語でプレゼンテーション

使うもの ... iPad, ロイロノート, Skype
Speak It!, CMS

■目標、内容・指導の概略等

エッセイを活用して「聞く」「話す」
「読む」「書く」の英語の 4 技能
の向上を目指す。

エッセイは、プレゼンテーションの共有や通話を
目的として使う。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取
り組みについて感じたことをのべよ。

■ 発表の後、聞いてくれた人達が中学
時代を振り返れた (であろう) と思ったた
め、伝えれたと思う。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべ
よ。

■ 生徒の対話を誘う問い方を
ナニとかが大事。直接答えにっせいの
のではなく、過程も考えさせるのが
重要であった。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

- ・ 通話やメールがもたらさないものについては、
iPad を使って 1 月へてもよい。
- ・ 外国人の先生との通話にはアプリ「Skype」
を使用。
- ・ 生徒の主体性と問題解決力の向上のため、
教師はあまり手をさしへない。生徒同士の
協力を期待する。

■工夫した点、出典等

出典：エッセイを活用した英語の
アクティブ・ラーニング

■模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

今日コロナ禍では、遠距離で会話か
できる通話アプリの交流率は非常に高かった
と思った。コンテンツ管理システムとロイロ
ノートの権限操作は、情報機器に不慣れ
でない先生には難しいものかもしれ
ないと思った。

2**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことを
のべよ。

■ このアプリが対話に効果的
その対話の深い「問い」につながった
とわかった。模範中でのコメントが
自分の考えを深めるとともに対話を深め
るように、授業内 7 分 (課題) にか
ける先生の問いが効果的であった
気がした。

確認問題06



各班ワークシート(確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ
各問のポイント

■問 1

- ①「学力保障」論の立場にたつ
- ②共通の目標に到達することかめざされることから、学習における共同条件が生まれる
- ③学力内容としての「到達目標」を評価規準とすることによって、どのような学力が形成されたのか明らかにすることができる
- ④評価結果をふまえて教師の教育活動の反省と子どもたちへの学習援助を通じて学力の保障をはかる

■問 2

自己評価とは子どもたちが自分で自分の人となりや学習の到達状況や学習の過程と評価することです。また、それによって得た情報によって、今後の学習や行動を調整することにもつながる。自己評価能力は、メタ認知とかモニタリングと言われる。このメタ認知は、「メタ認知的知識」と「メタ認知的活動」に区分される。この自己評価能力の形成が生涯学習社会の到来と相まって着目されている。

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと思ったことをのべよ。

子どもたちは、自分たちが
どの程度、知識が身について
いるのか認知する必要がある。

2*) 問題全体を通して見て、気づいたことをのべよ。

特になし

■問 3

子どもたちが知識を
実際の世界にどの程度
うまく活用されているのか
測るもの

■問 4

「構成主義的な学習観」

…学習することは、知識を量的に蓄積することではなく、環境とのなかで相互作用しながら、自分の経験に関する意味を再構成しつつ、学ぶことである。

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り組む時間や、問題内容と発表班との関係などについて、気づいたこと、感じたことをのべよ。

子どもたちが自分から学びたい
という気持ちがあれば、結果的に
相対評価でも、目標に準拠した
評価でも評価が高くなると思う
から、教師がいかに子どもたちに
そのような気持ちにさせるかが
大事だと思った。